

診断結果等

団体名	市9 島田市
診断対象紙名	広報しまだ2月号 2月15日発行
1 全体企画	<p>行政の広報誌という体質上、「報告・告知」が主たる目的となるためどうしても「硬く」「つまらなく」なりがちです。読者も好意をもって読むのではなく「情報収集、確認」のために読んでいるような記事も当然あります。でも「情報告知記事や案内」の他に巻頭の特集記事、まちの話だい、しまいく、スポーツ、レシピ、島田人などを入れて読み物としての面白さを充実させようとしている積極的な点はとても良いと思います。</p>
2 文章・表記	<p>文字の大きさや扱いはとても上手だと思います。読みやすい紙面づくりができています。文字を効果的に見せるための「余白」の使い方も良いですね。タイトルや見出しの見せ方も色、書体、ロゴ的にして親しみを出すなどとても良いと思います。ただ、大きさの大小を意識して見出しやタイトルにメリハリをつけてみるのもっと良くなると思います。</p>
3 デザイン・レイアウト	<p>全体のレイアウトはページ数が比較的多く、ゆったりと使えることもあり良くまとまっていると思います。デザインレイアウト的にここがダメ！と言うところはありませんでした。見出しの扱い、読みやすくするための工夫、飽きさせない努力が随所に見られ良いと思いました。</p> <p>ただ、繰り返しになりますますが主役と脇役の表現を「メリハリ」をもっとつけてダイナミックに演出してもいいかもしれません。紙面に変化が出て読み易くなり楽しくなります。</p> <p>それから、写真の扱いについてですが、巻頭の特集ページ以外ほとんどの写真が角版（四角）ですが、動きを出すレイアウトを演出するためにも「切り抜き」を試してみてください。手間は多少掛かりますが、誌面が生き活きとしてきます。</p>
4 表紙	<p>園児から逃げる青鬼さんの写真は非常に面白いのですが、写真の構図がいまひとつです。鬼の足先まで写真として入れる必要はありません。足先よりも大切なのは「顔」「頭部」です。すなわち、頭の上部分が詰まっているために少し窮屈に感じます。足先を切って写真の構図を下に移動させてバランスをとると良いかもしれません。子どもたちの笑顔と逃げる青鬼の表情がもっと鮮明に見えてきて表紙が生き活きとしてくるでしょう。</p> <p>表紙は「顔」ですので写真も構図も妥協しないようにしたいです。後はロゴとアイコンのメリハリ。もう少しどーんと大きく持ってきて良いと思います。並べ</p>

られたときに他の冊子の表紙に負けないイメージになります。

5 その他

3月けんこうナビや3月便利帳コーナーはもう少し配色を増やして読み易くしたいところ です。

「特にアドバイスを得たい事項」に対するコメント

巻頭見開き優先で目次を後ろに送った構成はもちろんOKです。演出上必要であれば変更は自由に行って良いと思います。読者満足を最優先すべきだと考えます。ちなみにマンガ少年ジャンプは人気によって掲載のマンガの順番をその号ごとに変えています（後ろに行けば行くほど人気は落ちているマンガだと言われています。厳しい世界ですね）。

個別コーナーはどれも変化があつて「情報を伝えるだけの広報誌」には必要不可欠だと思います。面白くて身近な記事は読者の獲得に繋がります。旬な話題を盛り込んで常に新しい発想で企画しましょう。

市政羅針盤は市長が自ら伝えるという意味では実に有意義なページだと思います。一般の市民にとって市長とはちょっと距離を感じる存在です。その市長が毎回このコーナーで発言する。市民と市長をつなげて市政の向かう方向を探る。まさに羅針盤という名にふさわしい良い企画だと思います。